

平成24年  
8月号

桂台地域ケアプラザ

# 地域交流プログラム

発行日／平成24年8月1日  
編集・発行／横浜市桂台地域ケアプラザ  
発行責任者／石塚 淳

お問い合わせ先

地域交流部門 897-1111

HPアドレス

<http://www.katsuradai.com>

桂台 支えあい連絡会

検索

今回は、障害者の「将来にわたるあんしん施策」について取り上げようとしたところ、大津市の「いじめによる自殺問題」が報道され、さらに横浜市でも障害児へのいじめ問題が報道されました。世間のどこかギスギスとした風潮や、弱い者を真っ先を守る風土がなかなか根付かない事を露呈する昨今の状況に対して、ちょっと暗澹たる気持ちになります。そうは言っても、地域に目を凝らせば、一方では弱い人たちを中心に置く事が優しい街の文化を作り上げていく事を信じた様々な活動が取り組まれていることも感じ、天秤が上がったり下がったりしています。

今日、テレビをつけたら、あのヤンキー先生（義家氏）が久しぶりに画面に現れ、自分の場合、4月の最初のホームルームで「このクラスでは絶対にいじめは許さない」と宣言をし、「おかしな空気があったら先生に伝えてほしい。それは告げ口ではなく、正義の伝言だ」と強力にメッセージを伝えると訴えていました。それぞれのやり方はあると思いますが、大人が弱いものを真っ先を守る事が、当たり前のこととして社会に根付く事が大切だと改めて感じています。

## 8月の おしらせ



### ◆ 夏休み特別プログラム＜小学生編＞ ◆

## ～栄養満点 手づくりハンバーガーに挑戦！～

楽しいクッキングを体験してみませんか？ 「食育」と「仲間づくり」のためのお役立ち講座です。



日時：8月24日(金) 10:00～12:30

講師：栄養士：坂野 恵さん

募集：小学生10人（定員次第締切）

申込み：桂台地域ケアプラザ

TEL 897-1111

### 桂台パソコンサロン★特別プログラム(第1弾)

“パソコンサロン”はシニアが楽しく・気楽に  
学び合う出会いの場です

## 『マーチャン iPadでつなぐ♪ ハッピー・エイジング♪』

日時：9月21日(金) 14:00～16:00

講師：若宮 正子さん (マーチャン)

募集：30名

申込み：桂台地域ケアプラザ

TEL 897-1111



## お月見釜 (桂台スペシャルデイ) のお知らせ

今月のスペシャルデイはお月見釜です！ 午後のひとときを一緒に過ごしませんか？

月に一度の「桂台スペシャルデイ」では、毎月素敵なプログラムを企画しています。地域の皆様も是非、足をお運び下さい。ご希望の方は、桂台地域ケアプラザまでご連絡下さい。

日時：9月15日(土) 14:00～15:00

場所：桂台地域ケアプラザデイルーム

内容：お茶、お琴の演奏など

9月といえばお月見です。

仲秋の名月を想いながら、「お茶」「生け花」「お琴の演奏」をお楽しみ下さい。



# 平成24年度第1回 本郷中央地区協働福祉講座開催を前に!

～虐待をテーマにした創作劇から学ぶ、人と人とのつながりの大切さ～

8月26日（日）本郷地区センターにおいて、平成24年度第1回本郷中央地区協働福祉講座が本郷中央地区支えあいネットワークの主催で行われます。今年度は、ひとつ間違えばどこの家庭でも起こりうる可能性のある「児童や高齢者に対する虐待やDV」をテーマにした創作劇を通じて、地域社会で出来ることを皆で話し合うのが目的となっています。

さて、今回はそういった本郷中央地区協働福祉講座の趣旨を踏まえ、虐待、特に高齢者虐待について、栄区役所高齢支援課高齢者支援担当の吉岡係長と杉澤ケースワーカーにお聞きしたお話をお伝えさせていただきます。

Q1

横浜市の  
高齢者虐待の現状を  
教えてください。



A1

最近の高齢者虐待の傾向としては、高齢化率の進展に伴って虐待の件数も増加しているという点にあります。ただ、虐待は表に表れにくいケースも多く、実態は数字以上に多いことも想定されます。虐待の種類としては身体的虐待が一番多く、次いで経済的虐待になります。身体的虐待は、傷や青あざなどがきっかけとなり発見されることが多く、経済的虐待は、管理者本人がかなり困窮し、水道光熱費や家賃などの支払いが滞ってしまう状態になって初めて明るみに出るといった事が多い傾向にあります。また、虐待されている本人が、虐待をしている人（多くの場合、配偶者や息子・娘・嫁など本人の家族である）をかばう事が多く、虐待の発見を阻む原因のひとつにもなっています。

本郷中央地区協働福祉講座

## 「創作劇で知る家庭内虐待・DV」

～ 創作劇を通して 家庭内で起こりうる児童・高齢虐待・DVの背景について考える～

- 1.住民参加の「創作劇」による提言
- 2.グループディスカッション

日 時：8月26日(日) 13:30～16:00

場 所：本郷地区センター 2F大集会室

申込み：桂台地域ケアプラザへ TEL：897-1111

**Q2**

虐待に関するの  
栄区における  
傾向はありますか？

**A3**

虐待に至るきっかけの要因として認知症の方の問題がありますが、大切な事は、認知症の方の周りにいる人が、病気のことを正しく理解し、その上で優しく見守っていくことだと思います。しかし、優しく見守りができる地域をつくる事はそんなにたやすいわけではありません。最近、子育てをする親の中にも子どもとしっかり手をつないでいなかったために、転倒事故や交通事故に巻き込まれた事例もあるように、子育てにおいても親への教育や周りからの支援が必要です。高齢者の支援についても、まさしく周辺の人たちの理解とご本人や介護者を孤立させないための工夫が必要になります。

**A2**

栄区の虐待に関する特徴としては、経済的虐待が起こりやすいという傾向があります。予防の手立てとしては、お元気なうちから親族同士で介護の事を話し合っておくことや、成年後見制度の任意後見制度などの利用が考えられます。また、傾向の一つとして、身近な人が認知症になった時、家族が認知症を発症した事を、他人に知られたくないと感じる家族の方が多くいらっしゃいます。虐待の温床になりやすい原因は、高齢者本人や介護者家族が孤立してしまう事にあります。認知症がきっかけで家に引きこもりがちになる事は、まさしくそのようなケースに一致します。このような事を予防するには、地道な啓発活動を通じて、家族や地域の人など、認知症の方の周りにいる人が認知症を正しく理解し、変に同情したり、逆に無関心でいることなく、優しく見守ってくれるような社会であることが望まれます。

**Q3**

地域の方への  
メッセージを  
いただけますか？



今回の本郷中央地区の取り組みは、まさしくお二人からいただいたメッセージにつながります。本郷中央の視点はいつも「地域でできる事は地域で取り組むこと」にあります。今回は「虐待」という重いテーマになっていますが、その実は今までの活動の延長線上にあり、顔と顔が見える関係を地道に紡いでいく事に地域でできる事のヒントがありそうです。

## 栄区で「横浜市障害者後見的支援制度」が始まっています!

横浜市に、障害児者のための「将来にわたるあんしん」施策というものがある事をご存知ですか? 横浜市では、平成22年度から段階を追って実施されていますが、地域の皆さまにもなかなか周知が行き届いていないのが現状です。細かい事業としては17もの事業にも分かれていますので、全てをお伝えする事は難しい(ご興味のある方は直接URLにアクセスしてください⇒<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/shogai/anshinpt/>)のですが、大きく3つのテーマに分かれています。3つのテーマは、それぞれ「障害者を見守る人的支援の仕組み」「医療的ケアの必要な障害児・者のための拠点づくり」「地域で障害児・者の移動を支える取り組み」になります。

さて、その中で栄区においてモデル的に取り組まれているのが、今回ご紹介する「**横浜市障害者後見的支援制度**」になります。この仕組みは、成年後見制度と勘違いされやすいのですが、後見的と「的」がついているのがみそです。後見制度では主な役割として本人になり代わっての「財産管理」「契約行為」「身上監護」ですが、後見的支援で行えるのは最後の「身上監護」の中の一部のみです。この事業が立ち上がった理由として、公的介護保険制度導入の理由の一つが「介護の社会化=家族介護からのシフト」であったように、障害児・者に関する支援に関しても、ご家族による本人への支援がベースになっていることが現状です。その問題を解決するべく、(現在も高齢化しているご家族の親亡き後の問題も含み)地域の見守り活動や福祉専門職の連携を通じて、障害者を地域で支える仕組みを作っていくことが本旨となります。

具体的には、**日常の見守りを希望する障害のある人**が、**栄区後見的支援室とんぼ**に登録し、身近な**あんしんキーパー**(ご近所の方や日中活動先の職員)や定期的の訪問する担当者の**あんしんサポーター**(福祉専門職)、ご本人と立てる支援計画の進み具合を確認する**あんしんマネジャー**と相談しながら、生活に関する不安を払しょくし、ご自分の将来の夢や目標に向かって進むことを手助けする制度となります。

後見的支援室とんぼの庄司氏が語る所によれば、人が豊かに生活するために3つのキーワードがあるとのこと。それは「くらしの場所」「はたらき」「あそび」です。それぞれ、安心して自分を迎え入れてくれる生活の場所があること、人とのつながりの中で果たせる役割があること、明日への活力のための人生の楽しみだそう。この3つが何らかの形で崩れてきた時こそ、相談の役割があり、聴く力が必要になるのだと思います。また、障害があるゆえにその気持ちを伝える事に困難がある場合が多い。だからこそ、定期的に障害のある方を訪問し、安心して話ができる場所をつくる事が重要になるのでしょう。

今回、このテーマを取り上げたのは、上郷西地区民生委員・児童委員赤堀会長から、今年の高齢者定期訪問連絡会では「後見的支援を取り上げるよ」とお話があり(平成24年6月23日に50名を越える出席者のもと開催)行ったからです。赤堀会長自身が繰り返し言っておられたのは「障害者と関わる機会が地域の中で増えると良い」と言うことでした。ご自身の障害児のプールの付き添いをした経験から、関わってみて初めて理解できる事がたくさんあるとの思いからのご発言と思います。地域からの声を追い風に、障害の方と触れあう機会をどんどん作っていくことが、今後のこの事業成功のカギとも思えます。さらに、後半の自治会毎に分かれたグループディスカッションの中でも、「障害のある方のご家族の話聴くサポートから入るとあんしんキーパーが増えるのでは?」などときらりと光る意見もたくさんあり、とても有意義な会となりました。

出前講座やあんしんキーパーについてのお問い合わせは

045-390-0201 栄区後見的支援室とんぼ 月~金 9:00~17:00